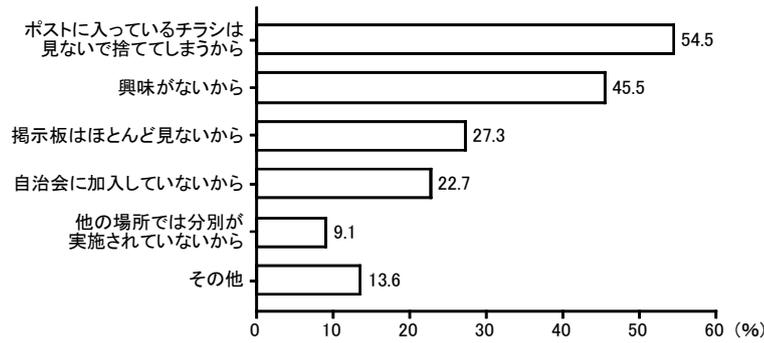


◆情報が伝わらない理由（「よく知らない」、「初めて知った」人の理由）

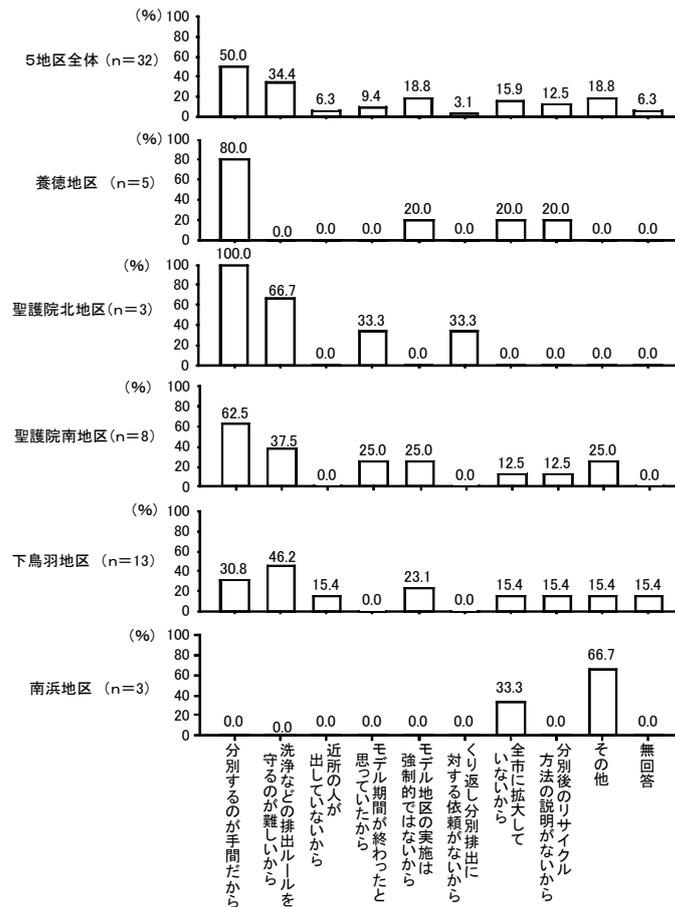


出典：京都市調査（H14.3）

③市民の意識が変化

○モデルだから全市実施になるまで参加しない

◆モデル分別に参加していない理由



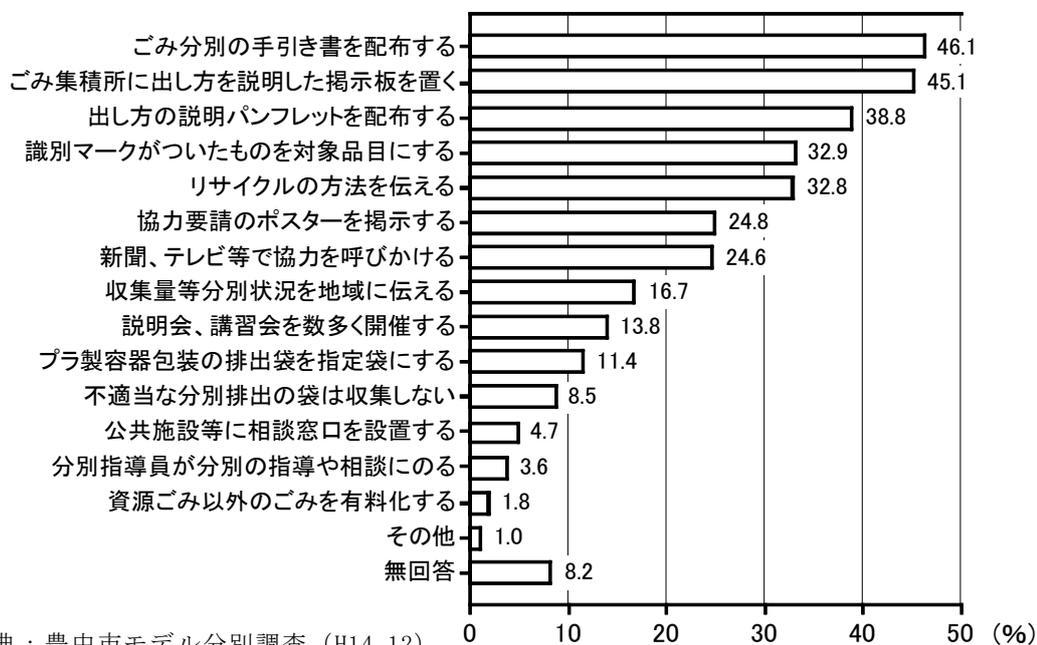
注）その他は、プラ製容器包装がほとんど排出されないなど

出典：京都市調査（H14.3）

(3) 分別協力率を高めるためには

○パンフレットの配布はもとより、ごみ集積所への掲示といった誰もが目に触れる場所での情報提供が必要

◆プラ製容器包装分別収集へ協力を高める方法（複数回答）



(4) その他の参考資料

①プラ分別収集の実施により、発生抑制行動実践率は高まる。

◆分別収集前後におけるプラ製容器包装発生抑制の実施率の変化

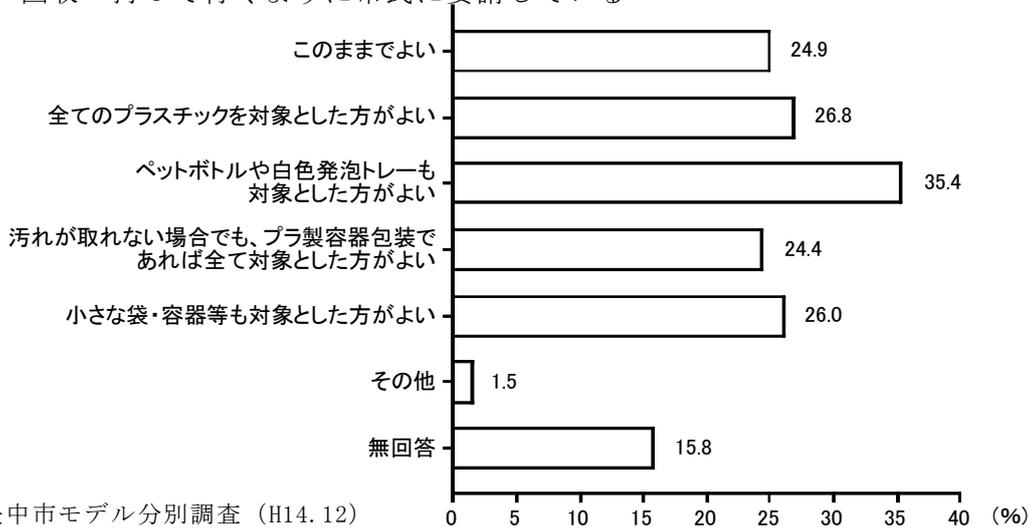
	Aプラ製容器包装 分別前実施割合 (%)	Bプラ製容器包装 分別後実施割合 (%)	向上率 (B - A)
特に何もしなかった	40.8	16.6	▲24.2
買い物袋を断る	18.5	32.1	+13.6
トレー入り商品の購入を控え、 計り売りを利用	5.2	9.3	+ 4.1
使い捨て容器入り商品の購入を 控え、再使用びん入り商品を購入	6.5	11.7	+ 5.2
プラ製容器包装入り商品の購入を 控え、紙製容器包装入り商品を購入	7.0	17.0	+10.0
使い捨て飲料の購入を控え、 水筒を利用	13.8	27.3	+13.5
詰め替え用商品の購入	42.8	65.9	+23.1
過剰包装の商品の購入を控える	8.8	17.9	+ 9.1
対面販売店の利用	3.8	5.2	+ 1.4
その他	1.1	1.7	+ 0.6
無回答	8.0	8.1	—

出典：豊中市モデル分別調査（H14.12）

②全市で実施した場合の食品トレイ取扱い（拠点回収のあり方）

◆店頭回収や別途分別よりも一緒に収集を望む声もある

豊中市のモデル分別では、マヨネーズのチューブ、ラップ、ボトルのふた、小さな容器包装などを収集対象から除いている。また、白色発泡トレイは極力店頭回収へ持って行くように市民に要請している



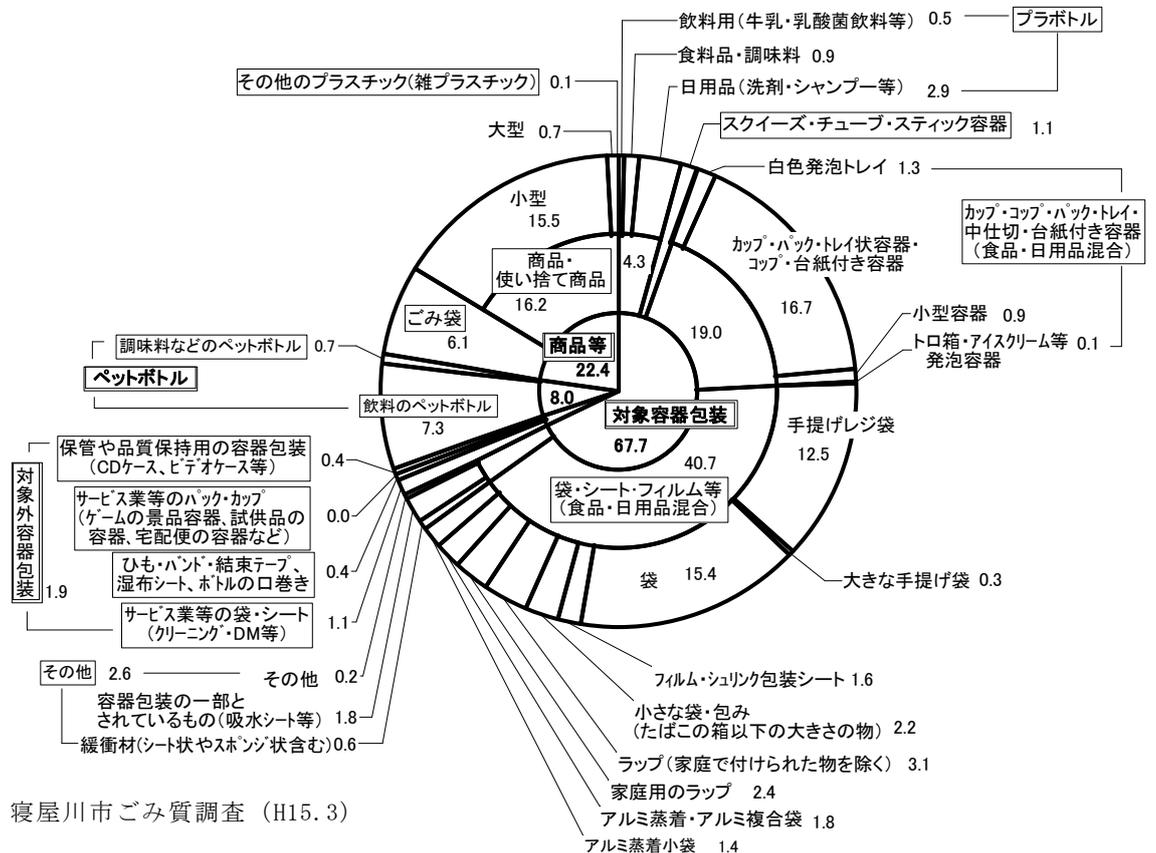
出典：豊中市モデル分別調査（H14.12）

③家庭から排出されるプラスチック類の実態

○洗にくいマヨネーズのチューブは1%、白色発泡トレイは1%と僅か

◆家庭系ごみとして出されるプラスチック類の組成（重量比）

[家庭系ごみ全体に対して 重量比 13.7%、容積比 43.7%]



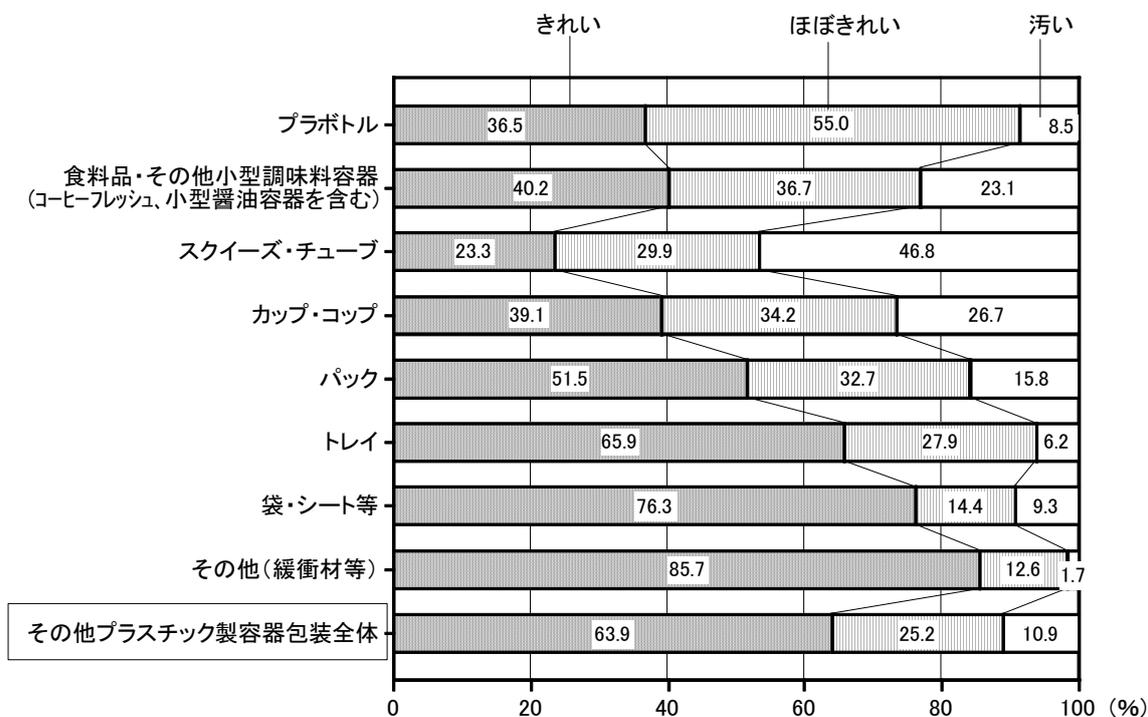
出典：寝屋川市ごみ質調査（H15.3）

④汚れたままのプラ製容器包装の排出割合

○マヨネーズ等のチューブ（スクイーズ）では汚れている物の割合は高いが、分別されたプラ製容器に占める汚れている物の割合は1割程度

→ 1割程度ならほぼきれい。問題は、一部の個人のルール違反

◆容器包装プラスチックの汚れ除去（洗浄）協力状況（重量比）



出典：大阪市ごみ組成調査（H16.3）

★一部の個人の排出ルール違反の例



(上図とは無関係)

(5) モデル地区でいくつかの試みを行い、全市実施時における収集量を予測

1) 具体的モデル分別地区候補

現在実施中の西松ヶ丘(H19～、915世帯)、ひかりが丘(H20～630世帯)の2地区他

2) 把握すべき事項

- ①収集頻度による収集量の変化
- ②モデル分別と全市実施における参加率の違い
- ③店頭回収の活用、発生抑制行動と浸透による分別収集量の削減

3) 把握方法

- ①収集頻度による収集量の変化
 - ・ A、Bの2地区の収集頻度を変える
 - ・ 現在のモデル地区の頻度を増やす
- ②モデル分別と全市実施における参加率の違い
 - ・ 現在のモデル地区の参加世帯を把握
(調査方法)
 - ・ 全戸アンケート等
 - ・ 参加者を徹底して増やす手立てをした時の収集量の増加を把握
 - ・ 全戸分別収集チラシの配布、地区住民への説明等による参加の呼びかけ
- ③店頭回収の活用、発生抑制行動と浸透による分別収集量の削減
 - ・ A、Bの2地区で、白色トレイやレジ袋の分別への排出を禁止して収集量の相違を見る(厳密には組成調査が必要)
- ④その他の内容
 - ・ プラ分別による収集車両積算率の変化
パッカー車で一定のコースの可燃ごみの収集を行い、積載量や積載効率の変化を把握し、全市実施後の収集計画の参考とする

4) モデル分別収集期間中に整理すべきその他の事項

- ①近隣における受け入れ体制の整備動向
- ②収集体制
- ③導入までの市民啓発方法